



障害のある方の口腔内の特徴を知ろう！

～脳性麻痺（Cerebral Palsy: CP）の患者さんが来院したら～

障害のある方たちの歯と口腔の健康の保持・増進と歯科疾患の予防を図るためには、まずは医療者側が障害に対する理解を深め、個々に適した支援で長期的に関わることが重要です。

疾患による口腔内の特徴や歯科疾患のリスクは様々であり、障害のある方にはリスクに備えた支援が求められます。今回は「脳性麻痺患者の口腔内の特徴と歯科的対応」についてご紹介します。

脳性麻痺ってどんな疾患？

受胎から生後4週間以内までに生じた脳の非進行性病変に基づく運動および姿勢の異常が認められる疾患で、症状は満2歳までに発現します。痙直型やアテトーゼ型など症状により病型が分類されます。自分の意志による身体のコントロールが難しく、過度な筋肉の緊張や不随意運動、突発的な反射がみられます。

脳性麻痺の合併症

知的能力障害、てんかん、視覚障害、聴覚障害などの症状が随伴することがあります。また、加齢とともに身体の変形・拘縮や心肺機能、摂食嚥下機能の障害が増加します。

口腔内の特徴を知ろう！

疾患特性により以下のような特徴がみられることがあります。

1 歯の咬耗

- 筋緊張から引き起こされる特有の顎運動やブラキシズムなどによる著しい咬耗がみられる



図1 クレンチングによる咬耗がみられる。顎の疼痛の訴えあり

2 歯列不正

- 筋の緊張や舌突出などが持続的に繰り返された場合に歯列狭窄、開口などがみられる



図2 舌突出が繰り返されたことにより生じた著しい開咬

3 歯の外傷

- 歩行不安定による転倒で創傷や歯の破折を生じる
- 棒や筆などを歯で保持したまま長時間過ごす習慣がある場合、歯の動揺や破折の要因となりやすい



図3 機器の操作で硬い操作棒を常用し歯冠破折した下顎前歯

4 服用薬の副作用

- 抗てんかん薬や降圧剤の副作用により、薬物性歯肉増殖症（発症率 約40～60%）がみられる



図4 抗てんかん薬アレピアチン®服用の影響による歯肉増殖

原始反射の残存

原始反射とは、中枢神経が未発達な新生児期から3ヵ月ごろに見られる特有の反応です。通常は脳の成熟とともに消失しますが、脳性麻痺の方は原始反射が残存しやすいため、歯科診療中の刺激が身体の異常反射（突発的な体動）につながりやすいのです。以下は歯科診療をする上で知っておきたい原始反射です。

【驚愕反射】

本人が予期しない音、光、疼痛、接触などの刺激で緊張による体動や反り返りが生じる。びっくり反射とも言う。

【緊張性迷路反射（図5）】

空間における頭の位置変化により身体の伸展緊張が変化する反射。背臥位では伸展、腹臥位では屈曲優位になる。



図5

【咬反射】

臼歯咬合面や歯槽堤に物が触れると瞬間的に閉口し、咬みしめる。

【非対称性緊張性頸反射（図6）】

顔を側方に向けたとき上肢が伸展し、反対側の上肢が屈曲する。



図6

歯科診療時の注意点と対処方法

歯科診療を行うにあたっては、患者さんの全身状態や合併症、コミュニケーション方法などを事前に確認しておくことが大切です。ここでは、歯科診療時に注意すべきポイントとその対処方法をご紹介します。

歯科診療時の注意点		対処方法
姿勢	<ul style="list-style-type: none"> * 水平位にすると、上下肢の伸展緊張や不随意運動が出現しやすい。 * 身体の変形や拘縮により、姿勢が安定しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> * 筋緊張を出にくくするため、頭部と肩甲帯を前屈させ、股関節・膝関節を屈曲させる（図7）。 * タオルやクッションで隙間を埋めて接触面積を増やす。  <p>図7 安定した姿勢をつくる</p>
診査・診療時	<ul style="list-style-type: none"> * 無影灯や照射器の光、タービンの音、疼痛などの刺激で驚愕反射による四肢の突発的な動きが出現しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> * 必ず事前説明を行い、心の準備をさせる。 * ライトはいきなり口腔に照射せず、胸元からずらす。 * タービン類は口腔外で作動させてから使用する。
	<ul style="list-style-type: none"> * 咬反射により、ミラーなどの器具破損で粘膜損傷をきたしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> * 必要に応じて開口器など、開口保持具を使用する。
開口器使用時	<ul style="list-style-type: none"> * 強くくいしばりによる歯の脱臼や不随意運動による下顎偏位のため、開口器が外れて頬粘膜の損傷をきたすことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> * 動揺歯がないか事前に確認する。 * 開口器は臼歯部でしっかり咬ませた状態で保持すると、位置がずれにくく安定しやすい（図8）。 * くいしばりが強い場合は、開口器のガーゼを2重に巻く。  <p>図8 開口器の保持</p>
	<ul style="list-style-type: none"> * 開口による筋緊張の出現や息ごらえにより、呼吸が抑制されやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> * 呼吸音や胸郭の動きを確認する。 * パルスオキシメーターを使用する。



今回は脳性麻痺についてご紹介しました。様々な身体的特徴や合併症を有する脳性麻痺の方はホームケアが困難なことも多いため、定期的な口腔健康管理が重要です。口腔疾患と全身疾患を予防して快適な毎日が送れるよう、安全で安心、良質な歯科医療を提供していきましょう。